

教育理念	「学力がつく・やりたいことを極める」新しい高校	当年度の課題
目標(テーマ)	・基礎学力を再生して(学力回復教育)高校を卒業 ・学ぶ楽しさを体験する科学的授業で、生涯を学び人に ・目覚めよ！自分力、やりたいことにチャレンジ ・徹底的な個人指導と親身なサポート体制	・学習指導要領に基づく、質の高い教育を展開できるよう、レポート及びスクーリングの内容の更なる充実と教職員の指導体制の強化に努める。 ・いじめの防止等に関する措置を実効的に行うためにいじめ対策委員会を運営する。 ・学校運営に関わる関係者評価を実施し、より質の高い学校運営をする。

※評価基準…A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:出来ていない

分類	評価の観点	評価項目	具体的な評価項目	評価	評価の観点と理由	改善策
教育課程	教育目標	教育目標	多様な生徒の学力・体調面など、個々の状況に応じた適切な支援・指導を行っているか。	A	・基礎学力の不足している生徒への個別対応については、本年度はレポート学習会を仙台・高崎・宇都宮・新潟で実施した。 ・レポートに対する生徒の理解度の把握に努め、更なる学習効果の向上に取り組みたい。 ・教育課程は標準的な履修科目以外の科目も選択できるように編成されている。	・精神的及び学力的に不安のある生徒の平素の学習状況については、限界もあろうが、担任・各科目担当教員を中心に、全職員で支援できる体制を更に整備していく。 ・レポート学習については、支援体制(主要都市でのレポート学習会の開催等)を更に拡充・整備していく。 ・スクーリングの各授業については、学習指導案の提出とともに授業参観・評価をし、充実・向上を図る。
		学習指導要領の対応状況	教育課程は学習指導要領に準拠しているか。また、その編成・実施の考え方について、教職員間で共有ができていないか。	A	・教育課程の編成、実施の考え方についての理解はできている。より効果的で質の高い授業を求め、不断の努力をしていきたい。	・生徒との履修相談にあたって、生徒の希望をよく聞き、希望に応じた履修登録となるよう、引き続き努める
	教職員連携	組織運営	校務分掌や各委員会、主任体制などが適切に機能するなど、学校運営・責任体制が整備されているか。	A	・前年度に引き続き、組織運営や校務分掌、各主任及び主事体制が適切に運用され、新任教員へのサポートも適切に行われた。	・教員間、事務職員間の連携・情報共有のため、引き続き、職員会議やスクーリング会議を更に質の高いものにしていく。 ・各主任、主事が適宜自発的に会議を招集して体制づくりを行い、情報共有や意思統一を図っていく。
		教員・教科間連携状況	教職員間の相互理解がなされ、共有及び信頼関係が構築された教育活動が行われているか。	A	・教職員間の相互理解・信頼関係に基づいた教育活動が行われている。	
教員と事務職員の連携状況		教員と事務職員の情報交換の機会があるか。また、それらの機会を通して、相互理解及び連携がとれているか。	A	・定期的な職員会議やミーティングを行っており、教員と事務部門での情報共有・意見交換の場面設定も行うことができた。		
学校運営	学校設置会社及び財務関係	学校設置会社の役員及び株式の状況	学校設置会社の役員及び株式の状況が事業報告書に記載されているか。また、その状況は学校を運営するにあたり適切なものとなっているか。	A	・学校設置会社の役員及び株式の状況が事業報告書に記載されている。その状況は学校を運営するにあたり適切なものである。	・就学支援金に係る事務について、学校事務職員による業務内容の習熟を図るとともに、学校設置会社の職員による学校事務職員のサポート体制を採り、引き続き適時性・正確性を確保する。
		学校の経営に必要な財産等の状況	学校の経営に必要な財産等の状況が事業報告書に記載されているか。また、その状況は学校を運営するにあたり適切なものであるか。	A	・学校設置会社の経営及び財産に関する状況が事業報告書に適切に記載されている。その状況は学校を運営するにあたり適切なものである。	
		高等学校等就学支援金	高等学校等就学支援金に係る事務を適正に執行しているか。	B	・就学支援金については適正に執行されているが、事務体制を維持し、引き続き適時性・正確性を確保する。就学支援金の支給要件につき誤解のないよう、募集要項・申請の手引きなど資料に説明を追加した。	
施設及び設備	施設及び設備	面接指導等を実施する施設・設備	面接指導等を実施する施設が、事業報告書に記載されているか。また、面接指導等を実施した施設・設備が教育上適切であるか。	B	・面接指導等は特設地域内の学校で適切に行われているが、極く一部の科目の面接指導を姉妹校の教員が兼務でおこなっていた。	・当校所属の教員が、当校において追加指導を行う。 ・連携施設における学習支援、課外活動等の内容の不断の充実を図る。
		連携施設	連携施設が、事業報告書に記載されているか。また、連携施設で学習面、生活面の支援が適切かつ十分に行われているか。	B	・連携施設では、面接指導等は行わず、本校教職員による学習支援、課外活動等が適切に行われている。学習支援、課外活動等の内容については一層の充実の余地がある。	・連携施設が学校そのものであるとの誤解を生徒・保護者に生ぜしめることのないよう、連携施設の名称を適切に改める。
危機管理	危機管理	役割分担	事故・災害などに対する教職員の連携及び役割分担が明確になっているか。	A	・関係各所(警察・消防・学校医など)の連携はとれており、事件・事故・災害などの際の対応体制も整っている。	・避難訓練を学校安全計画に位置づけ、生徒が体験的に理解できるよう計画的に実施し、万が一の災害等に備える。 ・危機管理意識を高めるために半期に1度、全体会議を実施する。
		安全管理	安全な学習環境づくり(校内外の安全点検管理及び諸活動)を推進しているか。	A	・万が一の災害等に備え、教職員だけでなく生徒も参加した避難訓練を計画し実践していく必要がある。	
		危機管理対応状況	危機管理マニュアルに基づき、町役場、警察、消防と連携するなど、安全対策がとれているか。	B	・個人情報の管理については、プライバシーの確保を維持しており、研修体制も整えている。	
		個人情報管理	生徒情報管理が適切に行われているか。	A		
教育内容・支援	面接指導・添削指導等	スクーリング参加状況	年間スクーリング日程計画に基づいた参加の促進が行われているか。	A	・年間計画に基づいた実施ができた。 ・生徒評価による評価結果に基づき、実施日程や面接時間調整等を再検討し、更なる顧客満足度を高めていくよう努める。	・集中スクーリングの日数を3泊4日に増やすことなどにより、全ての科目につき必要となる面接指導時間を確保するとともに、指導の一層の充実を図る。 ・精神的及び学力的に不安のある生徒については特に、担任・各科目担当教員を中心に、全職員で支援できる体制をさらに整備していく。 ・メディア学習の内容を、生徒の学力に見合った、より適切なものへと不断に改善していく。また、全てのメディアについて、計画的かつ継続的な学習に十分な視聴時間を確保する。 ・択一問題で不正解になったレポートに対し、個別の解説や指導を加えていく。
		スクーリング内容(面接授業)	各科目担当者が創意工夫を行い、生徒の興味・関心・意欲が高められる授業を展開しているか。科目ごとに指導が行われているか。	B	・複数科目をまとめて面接指導することなく、科目ごとに面接指導をおこなった。 ・レポート提出については、昨年と同様の状況であった。 ・メディアを含む学習内容は、生徒の学力により合致し、学習成果(興味・意欲・関心)が上がるよう改善に努める必要がある。	
		レポート内容・添削	興味・関心・意欲が高まるよう教材の内容を工夫するとともに、複数のメディアの導入に伴う生徒の学習成果の確認を的確に行っているか。また、ネットを活用した添削結果の遅延がないよう、計画的に業務を行っているか。	B		
試験	試験の実施	試験の実施	試験を適切に行っているか。	B	・集中スクーリング時に学校で試験を行っているが、当該年度の添削指導・面接指導が十分に行われない段階で受験する生徒がいる。	・(4月生)集中スクーリングを11月以降に実施することによって、試験を年度末に近い時期に実施する。 ・試験を集中スクーリングの最終日(第4日)に実施する。
		情報発信	ネット回線の有効活用	当校独自でネット開設している連絡・学習サイト「マイページ(通称)」にて、タイムリーな情報提供を行っているか。	A	・左記「マイページ」により、学校イベントなどの情報提供を行っている。
情報教育	情報能力知識	個人に対する効果的な情報提供	上記「マイページ」にて、生徒及び保護者が、学習進捗の確認や各分野毎(進路など)の情報が閲覧できるようになっているか。	B	・定期的な発行物「ルネ高通信」を自宅に発送し、生徒だけでなく、保護者にも情報提供を行っている。	
		情報モラル指導	各種活用能力の知識を向上させているか。	A	・情報の教科を中心に常に進化している「ネット社会の実態」について重点をおき、タブレット(iPad等)を使用しながら取り組んでいる。また、インターネットにおける若年者のトラブル・危険性についても理解を深める授業を行っている。	
生徒・進路・保健指導	生徒指導	指導方針の一貫性	指導方針に従い、生徒及び保護者の満足度(進級卒業・進路決定など)が高められているか。	A		・SNS等の活用のほか、定期的な発行物「ルネ高通信」や、インターネット上の生徒への連絡・学習サイト「マイページ」を通じ、組織的な生徒指導の更なる充実を図る。 ・外部機関との連携を強化し、より質の高い生徒対応ができるよう努める。 ・いじめに関する研修等の充実を図る。
		教員の共通認識と研修	学校組織に基づき、生徒が安全に諸活動ができるよう共通認識のもと、運営されているか。また、生徒の実態に応じたテーマについて、計画的な教員研修を実施しているか。	A	・スクーリング時の生徒指導については、教職員間で連携を取りながら対応できている。 ・生徒在宅時については保護者に任せられる部分が多いと言わざるを得ない。 ・家庭との連携については、担任が電話・メール・SNS等を活用し、連絡・意思の疎通に努めている。	
		家庭との連携状況	計画的かつタイムリーな連携をとり、充実した学校生活を送れるよう支援しているか。	A		
		いじめ等の問題行動の未然防止	すべての生徒が安心して学校生活を送れるよう、基本方針に基づき、いじめ対策委員会が設置され、適切に運営されているか。	B	・いじめ対策委員会を適切に運営し、いじめ防止に努めた。	
進路指導	キャリア教育	キャリア教育	生徒一人ひとりの状況に即し、主体的な進路選択に結びつく適切な指導をしているか。	A	・希望進路実現(進学・就職)に向け、計画的に実施している。 ・試験対策指導(筆記・面接など)の更なる強化が必要である。	・進路について、担任一人ひとりが最新情報を共有し、進路指導主事による支援のもと、適切な進路指導を行える体制を整える。
		保健指導	健康の保持増進	生徒が心と体の健康を自ら管理できる知識と実践力を育成しているか。	B	・スクーリングの特別活動(健康)にて、生徒の健康管理、生活習慣、健康増進に向けた取り組みを実施している。
その他	学校関係者評価	学校関係者評価	「大子町通信制単位制高等学校協議会」ほか学校関係者による評価・それぞれの立場・視点から意見を出し合うことを通じ、開かれた学校づくりが進められているか。	B	・評価活動を通じたコミュニケーションにより、保護者や地域住民などと学校が、お互いに理解を深めるように努めた。	・より充実した関係者評価を実施し、その公表に努める。もって教育の質の向上、学校運営の改善に努める。
		教職員研修	教職員が計画的に校内研修に参加できる習慣や体制が整備されているか。	A	・校内研修(生徒指導)のほか、県主催研修への参加者による伝言会にて共有を図った。	・校内研修の実施回数を更に増やし、教職員のスキルアップを図る。
		他校及び関係機関との連携	姉妹校(豊田校・大阪校)や県私学通信制定時制高等学校連絡協議会加盟校と、通信制高校の在り方などについて情報交換等を行い、学校全体の教育力を高めることに努めているか。	B	・姉妹校があることのメリットを最大限に活かし、更なる教育力の向上を図りたい。 ・県私学連絡協議会に欠かさず参加し、情報交換等を行った。	・姉妹校との連絡を密にとり、運営方法全般に関する事例等を共有できる仕組みづくりをさらに整えていく。

校長 桃井 教頭 齋藤 事務長 齋藤